

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
1 学習指導 ア 授業の質を向 ・個別最適化の学びを模索し、「わかった」「できた」といえる授業に取り組む。 ・探究活動を推進して、協働的な学習を展開する。 ・デジタル技術を工夫・研究して、有効利用の方法を探る。 イ スモールステップを活用して自己効力感を養い、「自発学習」する生徒の育成 ・学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて基礎学力の向上を図る。 ・小テスト等による達成感や成就感をもとに「自発学習」を習慣づける。 ・基礎力診断テスト結果を活用し、外部模試も積極的に受験させる。 ウ 年間を通じての学習指導 ・補講等を活用して、検定試験や模擬試験等の受験を積極的に奨励する。 ・「みのりゼミ」や講習会、オンライン英会話等、伸びる生徒には負荷をかけて、ワンランク上の学びを促す。 ・「わからない」という発言を促し、理解不足にならない指導を行う。	・学習内容が理解できているか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が84%であった。 ・解ったと感じる場面があるか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が85%であった。 ・デジタル技術の活用について、工夫の余地がある。 ・教材の工夫など解り易い授業か、の問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が85%であった。 ・生徒の進路等の実情にあった模試の運営を図ってきた。個々の生徒に適った指導を一層取り組む必要がある。 ・検定対策講座を適宜実施し、英検では2級4名、準2級17名が合格、漢検では2級7名、準2級7名が合格した。	3
2 進路指導 ア 組織的なキャリア教育の確立 ・1年次から卒業年次までの一貫したキャリア教育を確立するための再点検を行う。 ・個々の生徒に対応できるシステムを模索する。 イ キャリア教育を通して「社会的な自立」を促す ・自他の肯定感を高めるとともに、ピアサポートによる学校生活への定着と、コミュニケーション能力の向上を推進する。 ・キャリアパスポートを活用して、生徒自らが自立した進路活動ができるよう支援する。 ウ 外部機関との連携及び社会活動 ・マイレージを活用して、ボランティア活動やインターンシップ、上級学校訪問等に積極的に参加させ、将来設計につなげる。 ・ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。 ・自立のための社会性やマナーを育成する指導を推進する。	ア 卒業生177名。進路決定率は88%であった。内訳は、大学82名、短大1名、専門学校35名、就職20名である。 イ ・みのりの場でピアサポートを試行した。 ・キャリアパスポートについて、効果的な活用に向けて検討が必要。 ウ ボランティアは地域から深く感謝されており、地域①の72%が「地域ボランティアに参加して欲しい」と回答した。 ・地域の58%がマナー指導ができていると回答した。地域との交流が必要である。	4
3 生徒指導 「自他のチャレンジを尊重する」を合言葉に、組織的な生活指導を推進 ア 安心安全な学校を創るとともに、いじめや体罰の根絶 ・人権尊重の精神で、他人のチャレンジを邪魔しない意識の育成。	3 生活指導で大きな乱れはないが、生徒の自主性の涵養が必要となっている。 いじめや類似行為が発生するとともに SNS でのトラブルは散発しており、指導に取り組んでいく。 ・授業規律を守らない生徒を注意するか、の問に対しては、「あてあまる」「ややあてはまる」が82%。	3

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・５段階）	
イ 落ち着いた学校生活 ・ノーチャイム制により、自律的なスケジュール管理の力を育てる。 ・全校で「笑顔で挨拶」を励行する。 ・校服の正しい着用（特にスカート丈）と身だしなみ指導を推進する。 ・コミュニケーション力の向上、社会で活動するためのマナーを身に付けさせる。 ウ 文化祭、みのり杯等の行事を、工夫しながらの実施 エ 生徒の自主性を育てるHR活動や生徒会活動の推進 オ 部活動や委員会活動を振興して、校内の雰囲気活性化 カ 一年次の部活動加入率が、４５％になるよう働きかける キ 国際理解や異文化理解について取り組み、世界情勢の変容を理解する	・「自他のチャレンジを尊重する」を絶えず伝え、指導を繰り返して生徒に浸透させてきた。 イ ・挨拶はするようになってきているが、まだ十分とはいえない。 ・校服の着こなしは、ほぼできているが、引き続き生徒との対話が必要である。 ウ みのり杯・文化祭等の行事を工夫しながら実施できた。 エ 生徒会の自主性を育てるため、制服の在り方や目安箱の工夫などに取り組んだ。 カ 部活動の参加率は約４４％に達した。剣道・バドミントン・女子バレー・陸上競技で全国大会に出場した。	
４ 教育相談・保健指導（心と体の健康づくり） ア カウンセリング委員会を中心に種々の相談機能（スクールカウンセラー、自立支援チーム、みのりの場、スクールソーシャルワーカー等）の向上 イ 特別支援教育コーディネーターを中心に、通級指導等による配慮を要する生徒の支援 ウ いじめの未然防止と生徒の心身の変調や不安を、組織的に早期発見に努める エ 体育や部活動を通して、スポーツの楽しさと体力の向上、健康管理の大切さを知る機会を設ける オ 保護者や関係機関と密に連携をとり、心身の変調を察知し、積極的に相談にのる環境を醸成する	４ ア 教育相談部を中心に、外部専門家等を管掌させ課題の一元管理を行って問題の早期解決、全校体制での取り組みに努めた。 イ 個々のケースごとに対応しているが、個々の生徒の課題には十分対応できてはいない。 ウ いじめと認定する事案が発生した。 エ 部活動を通して、参加生徒の意識向上に結び付けることができた。	４
５ 募集・広報活動 ア 各種説明会を通して受検生や保護者、中学校、適応指導教室等への学校理解を深める イ 入学者選抜の結果を分析し、今後の改善を図る ウ ホームページを充実させ、中学校や適応指導教室等に情報を発信し、募集・広報活動の改善・工夫をする エ NPO 等と連携して、本校における教育活動の理解啓発を行う	５ ア・イ 学校説明会等の参加世帯数は１００３名であった。とくに適応指導教室等と密接に連携して、理解啓発に努めた。 ウ HP を随時更新して本校の取組を発信するとともに動画も頻繁に更新した。とくに来校できない入学希望者や保護者に対して学校の取組を動画や静止画、コメント等様々な形で掲載して情報発信に努めた。応募倍率は１．５３倍（昨年度１．４４倍）であった。	５
６ 地域交流、保護者対応、ボランティア活動、防災 ア 幼稚園や小・中学校、特別支援学校、町会、社会福祉協議会等、地域との関係機関との連携を強化 イ 防災訓練など地域との交流活動を推進して、ボランティア活動を活性化する	６ ア 地域で開催される行事や会合に参加 ・北中野中学校区地区懇談会を、本校にて２回実施し、防災活動等の情報交換を実施した。 ・杉並区中・高校生委員会 等 イ ・町会防災訓練（１９名）	４

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・５段階）	
ウ 「みのり保護者の会」及び「卒業生の会」の組織化に協力し、連携を図る エ 災害・震災等に備えた校内体制の整備（学校安全・防災対策委員会）と防災訓練の準備と検証を行う	・ボランティア活動：井草どんど焼き（１１名）、かみさぎ児童館（１６名）、かみさぎ夏祭り（１４名）、かみさぎ地区祭り（２２名） エ 避難訓練は、時間帯等を工夫して、「いつ」「どこで」発災に遭遇するかを考慮して実施した。	
７ 経営企画室 ア 教員との連携を強化し、経営参画型の企画室の構築 イ 効率的な予算執行を通して、学校経営計画の具現化 ウ 都民の教育ニーズを的確に把握して、行政的視点から学校経営に反映させる	ア 両者の連携は強化され徴収金等のトラブルはなかった。 イ 予算執行では計画的な実施ができ、計画的な執行を行った。 ウ 地域住民からの要望に配慮し、樹木の剪定や環境維持に努め、苦情は殆ど発生しなかった。	5
８ 環境整備担当 ア 清潔で安全な学校環境の維持整備 イ ゴみの分別指導や共通部分の清掃の徹底 ウ 修理・修繕を迅速に手配し、円滑な教育活動の推進に寄与する	ア 美化委員と清掃員が連携し環境が保てている。 イ ごみの分別は生徒と教員の 95%ができていると回答。 ウ 修繕等の対応は迅速にできた。次はトイレの改修である。	4
９ 図書室 ア 生徒の「読みたい」「知りたい」とした読書環境の充実 ・生徒の自発学習・自発読書環境を整備する。 ・授業に資する本を推奨するとともに、積極的に授業で活用する。 イ 英語多読ルーム、多読コーナーの充実 ・英語における自発学習環境を整備する。	ア 各教科から、授業で推奨する書籍をシラバスに掲載させている。 ・図書館利用推進員の訪問を受け、業務の見直しを進めている。 ・授業での図書館活用は、英語、国語、社会、キャリア科目等で活用された。 イ 多読用図書の更新が必要となっている。	4
10 研究・研修 ア 観点別評価の在り方について、各教科で検討・研究する イ 各自で研究課題を設定して、研究・研修に取り組む ・授業における指導技術の向上。 ・教育相談（自尊感情等）にかかわる理解の深化を図る。 ・ICT機器を活用した、オンラインによる相談体制を構築する。	ア 観点別評価は一応徹底されているが、知識理解に偏らないよう点検が必要。 イ 教育相談での特別支援学校との連携を行った。	3

※①は地域に依頼した『学校評価アンケート』、②は生徒による『授業評価』

次年度の課題

- 1 授業や学校行事の工夫・改善を通じて、「わかる」授業や「できた」といえる授業に取り組んでいく。
- 2 ICT 教育及び ICT 機器の活用に取り組んでいく。
- 3 授業と評価の一体化に取り組む。
- 4 英語教育を中心にグローバル教育を推進する。
- 5 進学指導のための「みのりゼミ」や講習会を推進し、生徒の多様な教育ニーズに応えていく。
- 6 生徒の興味・関心や進路に応じた、キャリア教育科目の充実を図る。
- 7 引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。
 - ・目標 中退率 5%未満、卒業者 毎年 170 人以上
 - ・細やかな相談事業によって、中退率を減少させる。
- 8 防災活動やボランティア活動の拡充を図って、地域と連携した活動を展開していく。
- 9 部活動を活性化して、加入者の増加をはかり、活気ある学校づくりに取り組む。
- 10 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有化を進める。
 - ・保健相談部を軸として、外部専門家との連携や専門性の確保に努め、困難事例の解決にあたる。
 - ・「校内別室指導推進事業」や「みのりの場」等の運用について検討し、生徒の幅広いニーズに応じるよう試みる。
- 11 生徒の授業出席率の向上を図る。
 - ・授業出席率を 75%に向上させる。
- 12 探究活動をはじめ、喫緊の教育課題に関係する校内研修を充実させ、本校のグランドデザインに基づき、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。
- 13 コンディションレポートを活用し、早期の変調に気づき対応できるようにする。
- 14 保護者との連携を強化し、本校の教育活動を正確に伝えるよう努力する。
- 15 災害対策として、夜間を含めた対策など、関係各部署や地域と連携した取組を行っていく。
- 16 経営企画室職員と教育系職員の連携協力体制を緊密化し、効率的な学校運営を行っていく。